

伍桃



秋号

2014.9 no.10
新潟医療福祉大学 同窓会誌

NIIGATA UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE
AN ALUMNIBULLETIN

G O T O H



特集

OT・ST連携研修会

P01

同窓会総会報告 P05
新役員紹介
会計報告

学術集会案内 P06
同窓生は今 P07
学科近況 P09

部活・サークル紹介 P12
大学院案内 P14
10周年記念パーティー案内 P15

首都圏支部発 OT・ST連携研修会開催報告

作業療法学科

言語聴覚学科

同窓生の生涯学習を目的とし、6月28日(土)に東京・新宿ワシントンホテルにて『OT・ST連携研修会』が開催されました。昨年の『PT・HN連携研修会』に続く第2弾として開催され、多職種連携教育をテーマに掲げる新潟医療福祉大学の卒業生ならではのユニークな研修会となりました。作業療法士と言語聴覚士との連携事例を共有することにより、各々の職場への活用を図り、当日は全体会(OT・ST連携発表)、OT分科会、ST分科会、懇親会の構成で行われ、発表者・見学者・教職員・在学生合わせ33名の参加者が有意義な時間を過ごしました。

受付～全体会(連携発表会)

全体会(4階桜)

◆研究発表①

「当院でのリハビリスタッフの連携～OT・STの連携に焦点を当てて～」

浜松医科大学医学部付属病院 佐野 哲也(作業療法学科2005年卒)

◆研究発表②

「小規模多機能型施設における困難事例への対応～家族支援と多職種連携に重点を置いて～」

新潟医療福祉大学助手 市野 千恵(言語聴覚学科2006年卒)



佐野 哲也さん



概要説明

作業療法と言語聴覚の両分野に関連する内容の研究発表を想定し作成した資料に基づき作業療法学科1名、言語聴覚学科1名の計2名の同窓生から発表していただいた。



市野 千恵さん



佐野 哲也さん

1.感想

久しぶりに同窓生たちと顔を合わせることが出来て、帰ってきたという機がよい気持ちになりました。今回は、発表する機会をいただき、拙いながらも、9年間行ってきた臨床経験を伝えることが出来ました。その後の質疑応答も積極的に議論をしてくださり、刺激を受けたとともに、今後の臨床に役立つような意見をいただけました。

また、研修後の意見交換の場では、後輩たちと話す中で、皆の成長を感じるとともに、自分自身もうかうかしてられないなと思いました。初めて出席しましたが、全体を通して、有意義な研修会でした。

2.同窓生に一言

同窓会のバックアップがあつてからこそ、その大学の価値が決まると思います。また、学会とは違ったアットホームな雰囲気を楽しむのも、この研修会の醍醐味と言えます。ぜひ皆様、積極的に参加して、新潟医療福祉大学の同窓会を盛り上げていきましょう!



市野 千恵さん

1.感想

私は今回、同窓会主催の連携研修会にて発表する機会を頂きました。研修会では、1期生の諸先輩方や同期の顔ぶれもあり、在学中のことを懐かし思い出されました。

発表においては、現場で従事する多職種の方々からの意見を頂戴することができ、一事例に対する他分野からの視点・アプローチといった学びを得ることができました。また、分代会においても同窓生の各職場での活躍を拝聴し、私も今まで以上に努力をしていきたいと思いを新たに致しました。

2.同窓生に一言

連携研修会に参加して「学会ほど堅苦しくなく、しかし積極的に意見が飛び交う情熱のある研修会だなあ」と感じました。未だ首都圏支部連携研修会は始まったばかりです。全国に散らばる多くの同窓生で盛り上げていければ、より良い会になるとと思います。



作業療法学科

OT分科会

OT研究発表

①「ADL場面でのOTとSTの連携～食事への介入～」

医療法人社団博友会 金沢西病院 前畑 宏樹(作業療法学科2008年卒)

②「症例を通して考える当センターでのOTの役割」

新潟県障害者リハビリテーションセンター 高野 友美(作業療法学科2009年卒)

概要説明

作業療法学科の同窓生2名の方より専門分野における研究発表が行われた。



前畑 宏樹さん



高野 友美さん



前畑 宏樹さん

1.感想

今回発表者として参加しました。自分の発表だけではなく他の同窓生の発表を聞く機会はありませんので新たな経験ができました。また、在学生や先生方も参加していただき大学の現状なども伺うことができ貴重な経験となりました。

2.同窓生に一言

会う機会は少ないですが今回の研修に参加して様々なところで頑張っている同窓生に会うことができ有意義な時間を過ごすことができました。研修会などをきっかけに交流が深められるといいと思います。このような機会を作ってくれた同窓会役員の皆さん、ありがとうございました。



高野 友美さん

1.感想

連携研修会に参加し、先輩方が臨床でどのように対象者と関わっているかを知ることができました。在学中は学生同士だったため、臨床経験を聞くことは不思議な感覚でしたが、とても刺激になりました。発表者という立場では同じ分野で働いている先輩と意見交換ができ、非常に有意義な時間となりました。

2.同窓生に一言

初めて連携研修会に参加しましたが、知識を深めるだけでなく懐かしい先生や先輩、後輩と交流することができました。アットホームな雰囲気の中で学生時代の話や臨床場面での意見交換ができる貴重な時間になると思います。

先生のコメント



作業療法学科 助教 泉 良太

今回の研修会で多くの卒業生に会えて大変有意義な時間を過ごすことができました。卒業してから久しぶりに会う卒業生もいたり、成長した姿を見ることができてうれしく思います。卒業教育という観点からこのような取り組みは素晴らしいことですし、STと合同で開催することで大学教育でやってきたことも活かされていて大変喜ばしく思います。またこのような機会があれば参加したいと思います。



言語聴覚学科

ST分科会

ST研究発表

- ①「脳出血後長期間の嚥下訓練の実施にて、経口摂取確立が可能となった一例」
社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 長嶋 健介(言語聴覚学科2008年卒)
- ②「摂食嚥下障害 検査入院の取り組み」
医療法人 愛広会 新潟リハビリテーション病院 塚田 紗知(言語聴覚学科2009年卒)



長嶋 健介さん

概要説明

言語聴覚学科の同窓生2名の方より専門分野における研究発表が行われた。



塚田 紗知さん



先生のコメント

言語聴覚学科長/教授
山岸 達弥

職種間の連携に関するヒントを得るという本研修会の趣旨は有意義であると思いました。

職場における彼らの活動内容や抱えている課題などを理解でき、今後の学生教育の参考になりました。社会に出て5、6年以上になる卒業生には普段なかなか会えないのですが、今回立派になった姿を見ることができ、また彼らの母校に対する愛着を感じ大変うれしく思いました。こういった機会があると先輩後輩のつながりが得られて良いですね。



長嶋 健介さん

1.感想

同窓会に参加してみて、参加するまでは正直、気が乗らないという思いが強かったです。しかし、いざ参加してみると、大学在学中に苦楽を共にした仲間や先輩、そして後輩に久しぶりに会うことができ、とても嬉しかったです。それぞれの活躍を知り刺激を受けました。また、発表に対しては様々な職種からの目線で質問や意見、そしてアドバイス等を受けたので、自分自身のスキルアップにも繋がりました。

2.同窓生に一言

同窓会という堅苦しいイメージがあり参加に躊躇すると思います。私もその一人でした。しかし実際は、和気藹々と楽しい会ですので、是非みなさんと盛り上げていきましょう。



塚田 紗知さん

1.感想

今回研修会に発表者として参加させていただきましたが、他の病院の取組や旧友、先生方にお会いすることができてとても充実した時間となりました。また機会があればこのような会に参加したいと思います。ありがとうございました。

2.同窓生に一言

初めは堅いイメージがありましたが参加してみるとそうでもなく、自分でも思いもよらない発見や出会いがありました。皆さんも同窓会のイベントなどに参加してほしいかでしょうか。同窓会を盛り上げていきましょう。

懇親会



OT・ST連携研修会を終えて

在生も参加しました



星 雄大さん
(作業療法学科3年)

大学在学中に実際に臨床の場で行われているリハビリテーションの内容や他職種連携についての知識を増やしたいと思い参加させていただきました。

多くの事例を聞き、1人の人間の将来を決める職業であることの責任感や様々な職種からのアプローチをすることにより患者さんの自立をさらに促していくという

重要性を再認識できたり、疑問を持ち多くの視点から問題を研究する姿勢が対象者のQOLを高める第一歩になるということも肌で感じることが出来ました。

今回の症例研究会では自分自身の考え方の変化や知見を広めることにも繋がり、とても価値のあるものになったと思います。



重田 沙紀穂さん
(作業療法学科3年)

今回、研修会に参加させて頂き、多くのことを得る事ができました。現在の作業療法の現場がどのような状況なのか、患者さんとどう関わっているかを知ったのと共に、先輩方の患者さんに対する熱意を感じることができました。これから実習を迎える私たちは、不安や心配事が多くあり、誰に相談や質問をしたらよいのか分からない部分もありましたが、研修会に参加し、実際にバイザーさんとなる方とお

話しをすることで実習や臨床に早く行きたいという気持ちが強くなりました。今回参加することで、作業療法士になりたいという気持ちがさらに強くなったのと共に、作業療法の深さを感じました。臨床の場で先輩方と同じように、患者さんとしっかり向き合えるよう、これからの学習をもっと努力していきます。貴重な場に参加させて頂き、本当にありがとうございました。

OT・ST連携研修会について総評

今回OT・ST連携研修会を実施して、一人の対象者に対して、他職種は何を問題とし、どのように対応しているかという視点を感じることができ、大学在学中に学んだ「多職種連携」の重要性を改めて確認することができました。また、何より同窓生の元気に活躍されている姿は、大変刺激となりました。

分科会においても、皆さまの積極的な参加があり、質疑応答も活発に行われ、先生方からもご講評をいただきとても有意義な時間となりました。個人的には、携わる人が少ない領域のOT同士の交流があり、同窓会を介して普段なかなかできない情報交換がで

きたことを大変嬉しく思いました。

今回で二回目となる連携研修会ですが、まだ不慣れな点も多く至らない点やご迷惑をおかけした点もあると思います。これからの課題として、参加人数が増えてきて、少数の同窓会役員だけでは運営が難しくなってきました。より多くの役員が運営に関わり、さらに充実した研修会が実施できるようしていきたいと思います。皆様にもより良い会となり継続していけるよう、ご協力ご指導いただければ幸いです。

ご参加いただいた皆様、どうもありがとうございました。



大滝 直子
(作業療法学科2007年卒)

総会実施報告

こんにちは。今年から副会長をさせて頂いている田村です。よろしくお願ひします。第2回合同研修会にご参加いただいた皆さん、お忙しい中ありがとうございました。お陰様で内容の濃い、有意義な研修会となりました。これからも、会員の皆さんに役立つような企画を考えて実行して行きたいと思ひます。さて、今年と同窓会が満10周年の節目です。記念パーティーを開催し、これまでの大学や同窓会が歩んできた軌跡を見たり、懐かしい仲間との再会ができる場にしたいと思ひています。多くの会員の皆さんに楽しんでもらえたらと考えていますので、ぜひ参加してください。お待ちしております。

同窓会副会長

田村 祐美
(理学療法学科2007年卒)


新役員紹介

New Face


 理学療法学科
郷津 良太

 理学療法学科
長岡 小夏

 理学療法学科
野沢 哲矢

 理学療法学科
正木 友佳子

 作業療法学科
河谷 陽介

 作業療法学科
小島 拓真

 作業療法学科
田中 祐司

 作業療法学科
渡辺 慧子

 言語聴覚学科
遠藤 まい

 言語聴覚学科
小林 健太

 言語聴覚学科
高橋 有希乃

 言語聴覚学科
若杉 美華

 義肢装具自立支援学科
今井 歩

 義肢装具自立支援学科
嶋見 優太

 義肢装具自立支援学科
松原 千裕

 義肢装具自立支援学科
立川 円

 健康栄養学科
阿部 英里香

 健康栄養学科
加藤 壘

 健康栄養学科
松永 千晶

 健康栄養学科
丸山 哲史

 健康スポーツ学科
小林 正幸

 健康スポーツ学科
外山 詩乃

 健康スポーツ学科
濱田 祐輔

 健康スポーツ学科
藤田 広大

 看護学科
井谷 竜朗

 看護学科
佐藤 菜摘

 看護学科
深谷 友加里

 看護学科
前田 愛実

 社会福祉学科
佐藤 琢磨

 社会福祉学科
遠山 優

 社会福祉学科
早川 明里香

 社会福祉学科
藤巻 早紀子

 医療情報管理学科
一ノ瀬 靖紀

 医療情報管理学科
遠藤 龍

 医療情報管理学科
長谷川 未奈

 医療情報管理学科
山口 真央

総会実施報告

平成26年5月24日(土)、新潟医療福祉大学にて第10回新潟医療福祉大学同窓会総会が開催されました。そこで承認された平成25年度決算及び平成26年度予算について報告いたします。

平成25年度収支決算書

平成25年4月1日～平成26年3月31日

I.収入の部

科目	予算額	決算額
1.会費収入	11,710,000円	11,739,920円
2.利息収入	3,000円	2,392円
3.雑収入		12,390円
4.前年度繰越金	27,688,321円	27,688,321円
収入の部合計	39,401,321円	39,443,023円

II.支出の部

科目	予算額	決算額
1.事業費	6,250,000円	4,900,696円
2.会議費	800,000円	612,622円
3.管理費	2,350,000円	1,923,749円
4.その他	1,100,000円	61,450円
支出の部合計	10,500,000円	7,498,517円

平成26年度収支予算書

平成26年4月1日～平成27年3月31日

I.収入の部

科目	予算額
1.会費収入	13,740,000円
2.利息収入	3,000円
3.雑収入	
4.前年度繰越金	31,944,506円
収入の部合計	45,687,506円

II.支出の部

科目	予算額
1.事業費	7,650,000円
2.会議費	900,000円
3.管理費	2,810,000円
4.その他	1,150,000円
支出の部合計	12,510,000円

第14回 新潟医療福祉学会・学術集会

期 日 平成26年10月25日(土)

場 所 A棟3階 A301(大講堂)、GA棟2階 GA203

学会テーマ 「地域包括ケアシステムの構築と
保健・医療・福祉専門職の役割」

終了後、大学からチサンホテル(10周年記念パーティー会場)までの無料バスをご用意する予定です。
(ご利用人数により変更することがあります。詳しくは同窓会支援室までお問い合わせください。)

現在、日本は65歳以上の高齢者人口が3,000万人を超え、国民の約4人に1人が高齢者となっています。今後も高齢者人口の割合の増加が加速し、国民の医療や介護に関する需要が更に高まることを見据えて、厚生労働省では、平成37年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進することとしています。

新潟医療福祉学会では、平成13年の発足以来、毎年時宜を得たテーマを掲げて学術集会を開催し、保健・医療・福祉分野の発展のために活動してまいりました。

今年度の学会では「地域包括ケアシステムの構築と保健・医療・福祉専門職の役割」をテーマに取り上げ、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることを可能にする地域包括ケアシステムについて考えます。特別講演は、在宅医療を提供する機関等を連携拠点として、多職種協働による在宅医療の支援体制を構築し、医療と介護が連携した包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指す新潟市医師会会長の藤田一隆先生に「新潟市における「地域包括ケアシステム」構築について―医師会の取り組みを中心に―」の演題でご講演いただきます。シンポジウムでは、地域包括ケアシステムのモデルとなった先駆的サービスを展開している小山剛氏(社会福祉法人長岡福祉協会高齢者総合ケアセンター総合施設長)を座長に、シンポジストの皆さまから、地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉専門職の役割や連携についてご発表、討議していただきます。



プログラム

9:00	受付
9:40- 9:45	開会式 会頭挨拶 新潟医療福祉学会 会頭 山本 正治(新潟医療福祉大学 学長) 大会長挨拶 第14回 新潟医療福祉学会 学術集会 大会長 丸田 秋男(新潟医療福祉大学 副学長/社会福祉学部長)
9:45-10:15	一般演題I(プロジェクト研究センター報告)
10:15-11:05	一般演題II(口演)
11:05-11:55	一般演題(ポスター)
12:00-12:30	新潟医療福祉学会総会
12:30-13:30	昼休み
13:30-14:10	特別講演 座長 丸田 秋男(新潟医療福祉大学 副学長/社会福祉学部長) 「新潟市における「地域包括ケアシステム」構築について ―医師会の取り組みを中心に―」 講師:藤田一隆(一般社団法人新潟市医師会 会長)
14:20-15:50	シンポジウム 「地域包括ケアシステムの構築と保健・医療・福祉専門職の役割」 座長 小山剛(社会福祉法人長岡福祉協会高齢者総合ケアセンター 総合施設長) シンポジスト 1. 斎藤忠雄(斎藤内科クリニック 院長) 「今変わる在宅医療～地域包括ケアシステムを支えるために」 2. 柏木夕香(新潟県立がんセンター新潟病院地域連携相談支援センター 副看護師長) 「地域包括ケアシステムに病院看護師はどの関わるか」 3. 斎川克之(済生会新潟第二病院 地域医療連携室 室長) 「地域包括ケアシステムにおける連携室ソーシャルワーカーの役割」 4. 郷貴大(公益社団法人新潟県理学療法士会 理事) 「地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション職種の役割」
15:50	会頭賞・奨励賞表彰 閉会式 実行委員長挨拶 第14回 新潟医療福祉学会 学術集会実行委員長 近藤 あゆみ(新潟医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科)

column

私はこれで国家試験に合格しました!

新潟医療福祉大学大学院
医療福祉学研究所 保健学専攻1年
郷津 良太さん(理学療法学科2014年卒)



私が理学療法士国家試験を合格するために、勉強中に意識して取り組んだことは1つです。それは徹底した理解です。どんな問題集や参考書にも「暗記よりも理解が大切だ」と書かれていますが、これは本当です。しかし、問題を解き始めると分かりますが覚えなければならぬことは莫大にあります。「こんな膨大な量の知識を全て理解できる訳がない。やっぱり暗記したの方が時間もかからないし、余分な知識も必要ないから使える。」そう考える人もいます。実際、私自身も暗記の方が良いのではと思ったことがあります。しかし、一つの知識を「暗記」ではなく「理解」した方がはるかに覚えやすく、忘れにくく、かつ幅広い知識が身に付きます。また、多少ひねった問題が出題されていても、物事の根幹を理解していれば応用が効くため回答できるのです。

では、具体的にどのようにして理解して知識をつけていったのかを述べていきます。まず手元に赤色のボールペンと赤シート、問題集を用意してください。一番から順番に解答してください。5問程度解答したら答え合わせをしてください。さて、ここからです。問題文、または解答の選択肢において分からなかったり、理解が曖昧な単語があれば赤

ペンで目印を付けてください。その後、問題文が記載されているページの余白に、その単語に関する情報(ネットや教科書で調べたこと)を書けるだけ書いてください。この作業を他の分からない単語でも同様に行ってください。問題集は大抵、基礎を生理学、解剖学などと細かく分野ごとに分けています。上記の行程を1分野終えたら、復習の作業に移ります。また一番目の問題から順番に解答してもらいたいのですが、次は赤シートを被せた状態でいきます。そして、問題を解答しつつ、余白に記載した補足情報を思い出しながら進めてください。これを繰り返し行います。

以上の作業を基礎、病理学程度までは徹底して行うことを推奨します。ここまで行えば、残る理学療法分野は基礎と病理学の複合応用問題が多いため、問題集の余白に記載した知識で解答できることが多いです。国家試験は長期戦です。それまで10回に渡り行われる模擬試験で点数が悪く落ち込むことなく、日々ノルマを決めて進めてください。ご健闘を祈っています。

同窓生は今

「癒し」となる出会いを

社会医療法人 嵐陽会 三之町病院 勤務

山本 健滋さん
(理学療法学科2010年卒)



Q1 勤務先について

社会医療法人 嵐陽会 三之町病院 リハビリテーション科に理学療法士として勤務しています。私は現在回復期病棟に勤務しておりますが、当院は新潟県中央地域において救急医療の中心を担っており、急性期の医療にも力を入れています。

私は回復期病棟で患者様に対して理学療法の提供、また患者様とその家族、地域との連携等を通して、退院までの関わりをさせて頂いています。

Q2 学生時代の思い出

ゼミでの活動です。卒論や、国家試験はもちろんですが、旅行をしたり、懇親会をしたり、多くの思い出を共有できたことが思い出です。その他にも学生生活の思い出は本当に多く、語りきれません!今となっては毎日が思い出だった、そんな感じです。

Q3 大学の経験と仕事との関係

はい。新潟医療福祉大学では他職種の友人も多く出来ましたので、院内におけるチーム医療、コミュニケーションに関しては非常に大きな影響があるかと思えます。また、私が卒業した理学療法学科の同期は非常に意識が高く、優秀な仲間が多いので、卒業した今も刺激を受けてやっています。この出会いはこの大学に来なければ無かった訳ですから、非常に大きな財産です。

Q4 今後の夢、目標

一人でも多くの方に笑顔になって頂けるように頑張りたいです! 大学での出会いも、一生大事にしていきたいです。

Q5 最後に同窓生や在学生にメッセージを。

大学時代は仲間とたくさん飲んで、語って、大学生生活を満喫してください!!それが仕事をしてから礎になっています。



患者様自身を尊重し、コミュニケーションを大切にし、心に寄り添うことができるように関わっています。

医療法人 越南会 五日町病院 勤務

荻谷 陽介さん
(作業療法学科2014年卒)



Q1 勤務先について

新潟県南魚沼市五日町にある医療法人越南会五日町病院で勤務しています。五日町病院は精神科病院で山に囲まれた自然豊かな場所にあり、冬には雪がたくさん降り一面真っ白な雪景色を見ることが出来ます。私は五日町病院で作業療法士をやっています。レクリエーションや歌、手工芸など様々な作業を用いて患者様が安心感を得ることや気分転換を図り落ち着いて日々を過ごすことができるような援助を行っています。

Q2 学生時代の思い出

国家試験です。国家試験の模擬テストで学科での平均点も低く、成績も先生から叱られることもありましたが、しかし、全員で合格したい思いが強く、分からない問題を教え合ったり、夜遅くまで勉強して協力し合い、無事に全員が国家試験に合格することができました。国家試験後にいった、伊香保温泉での思い出とお酒の味は今でも忘れません。

Q3 大学の経験と仕事との関係

患者様の援助を行う上で、他の職種とのコミュニケーション、連携はとても大切だと感じています。大学の連携ゼミなどで、他の職種の学生と関わりを持つことができたような役割を担うのかということや学ぶことができたのはとても勉強になりました。大学での授業などで学んだことがあったからこそ案

しく、またやりがいを感じて働くことができるのだと思います。

Q4 今後の夢、目標

まだ、働き始めて半年程度で分からないこともたくさんあります。これから日々、たくさんの人との関わり方を学び、患者様が安心感を得られたり笑顔になる機会を少しでも増えるような関わりができるようになり、患者様の役に立てるように頑張っていきたいと思っています。

Q5 最後に同窓生や在学生にメッセージを。

同窓生の皆さん、県外や地元に戻り就職した人も多く皆さんになかなか会えないと思います。私は、10期生のみなどで集まり、学生時代の思い出を笑いながら話し、お酒を飲むことができればいいなと願っています。いつかみんな

で集まりましょう。在学生の方は、今しかできないことがたくさんあると思います。大学でたくさんの思い出を作り、勉強と遊ぶことどちらも手を抜かず頑張ってください。



連携総合ゼミ講師派遣事業

8月5日(火)、新潟医療福祉大学にて「連携総合ゼミ」のオリエンテーションが行われました。このたびは初の試みとして、白根大通病院に勤務されている同窓生6名(理学療法士 山川朋芳氏(4期生)、吉沢圭亮氏(6期生)、作業療法士 高野葵氏(7期生)、言語聴覚士 渡辺いずみ氏(5期生)、山口万里絵氏(7期生)、管理栄養士 内藤舞氏(6期生)の方々にお越しいただき、実際の臨床現場における多職種間連携の事例を発表していただきました。例えば言語聴覚士と管理栄養士が嚥下に関して情報交換し合って患者様に最適な食事を提供する様子などが説明されるなど、在学生からは、職種間連携についてイメージできた、これから連携総合ゼミで学んでいくのが楽しみになった、早く医療現場へ就職したくなった、などの声が聞こえてきました。白根大通病院の皆様、お忙しいところありがとうございました。



連携総合ゼミ講師派遣事業の詳細については
次回の伍桃でお知らせする予定です。

同窓生は今 様々なフィールドで頑張っている同窓生

スポーツの世界から金融機関の世界へ!!

メットライフ生命保険株式会社 勤務

栗山 祐哉さん(健康スポーツ学科2012年卒)



Q1 勤務先について

私の勤務先はメットライフ生命保険株式会社という外資系金融機関です。仕事内容は個人、法人等に対して保険を活用した金融サービスの提供や生活保障の為に医療保険の提案などを行っています。現在、主に活動しているのは新潟や関東、東海地方中心のお客様は20代前半～30代と比較的若年層の方にお金を貯める上での仕組みづくりの提案や効率的な資産形成のお手伝いをしています。

Q2 学生時代の思い出

学生時代の思い出は正直遊んでいた記憶しかありません。大学時代は今思えば老後を除いて人生で一番自由な時間がある期間だと思います。この4年間をいかにうまく活用することができるかが大事なのではないかと今更ながら思います。特に私はアメリカなど海外に行ったことで今まで日本、新潟と狭い世界でしか見えてなかったものが、広い視点で世の中を見ることができました。この経験は今後の人生を謳歌するための大きな経験になりました。

Q3 大学の経験と仕事との関係

私は健康スポーツ学科に所属しており、教職を専攻していたため教育実習に参加させていただきました。元々スポーツでラグビーをしており、リーダーなどをまとめる役割をしていたので何かに物事を伝える経験を多くしたいと思いました。実習の中で中学生相手に難しいことをいかに簡単に伝えるかを

考え、実践し伝える力を養えたことは職種は違いますが今の職業に十分に生かすことができていると思っています。

Q4 今後の夢、目標

私自身今後の目標としては世界で活躍できるプレーヤー、そしてマネジメントを学び金融のスペシャリストに向けて勉強していきます。私の仕事というのは単なる生命保険のアドバイザーではありません。日本は金融の知識が世界のトップの先進国でありながらあまりにも少ないです。海外では学校でコンシューマーエクスという科目で株や為替、お金の貯め方など金融の知識、技術を子供のうちから学び賢く生きています。みなさんが就職活動や、仕事でお給料を気にするだけでなく将来の日本のインフラに備えて賢い資産形成を行い、より幸せな人生を送っていただく為のサポートできるように精進していきます。

Q5 最後に同窓生や在学生にメッセージを。

同級生の多くが様々なフィールドで活躍し各々目標や夢があると思いますが一度きりの人生、お互い成功することを祈っています。人によって成功や幸せの考え方は違うと思いますが、私はやるからには1番になりたい、なると意識しながら生きています。人生やるかやらないか、それだけだと思います。在学生の方々はまだまだ大学で吸収できることが沢山あると思いますので多くを学び、社会人として活躍してください、みなさんと一緒にビジネスができることを楽しみにしています。

OT3・4期学科同窓会開催

6月28日(土)の連携研修会終了後、OTの3・4期による学科同窓会が開催されました。当日は7名と現在、埼玉県立大学に勤務されている濱口豊太先生も参加していただき、これからの作業療法学科の同窓会活動について話し合いをしました。

これからは同窓生の情報交換・親睦会など活動を活性化させる必要があることや、作業療法学科同窓会の目標検討や希望の聴取など前向きな議論がでて、大変、有意義な会となりました。今回は3・4期だけの開催となりましたが、これから活動の幅を広げていき、作業療法学科の同窓会を盛り上げていきたいと思っています。



同窓会より緊急告知

学科同窓会を開催しませんか?

同窓会では、同窓生が集まる機会を増やすために様々なサポートをしています。

「○○○○学科で同窓会をしたい」、「○○期生で同期会をしたい」など学年・学科にかかわらず、同窓生相互の集まりを企画したい等、同窓会がサポートしています。

ちなみに上の報告にある「OT3・4期学科同窓会」もサポートさせていただきました。

困ったことがありましたら小さなことでも構いませんので同窓会支援室にご連絡ください。

連絡先

新潟医療福祉大学 同窓会支援室

TEL:025-257-4455 FAX:025-257-4456 Email:dosokai@nuhw.ac.jp

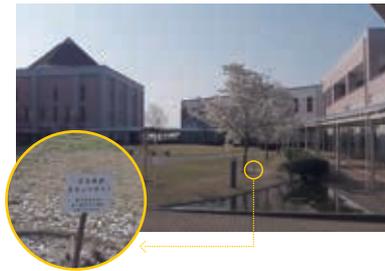


| 学 科 近 況 |

理学療法学科

理学療法学科 准教授
古西 勇

4月下旬、中庭に出てみると、オオシマザクラが白い花を満開に咲かせていました。よく見ると、1期生の皆さんが卒業時に記念植樹された樹でした。ちょうど3月に10期生の卒業式があったばかりでしたので、大学として初めての卒業生を送り出してから早10年と感慨深いものがありました。



学生と同じように教員にも入れ替わりがあります。1期生の皆さんの卒業と一緒に祝った教員も、あれから10歳、年をとったこととなります。キャンパスの環境も年々変化があり、開学時は図書館棟のAから始まり実験実習棟のGで終わった建物も、今ではPまであり、教員も「次の教室はどこだっけ?」と迷うこともあるくらいです(年のせいかもしれません)。



オープンキャンパスでは、高校生に対して2、3年生が熱心に説明をしていることにいつも感心しています。その情熱は、先輩の皆さんから引き継がれてきた伝統だと、感謝しています。卒業生の皆さんのご活躍を期待しています。

作業療法学科

作業療法学科 助教
岩波 潤

作業療法学科の同窓生の皆さん、お久しぶりです。本学での勤務が3年目となった岩波です。今年の新入生は14期生となり、私とは一回りも年齢が違う学生が入学してきました。若い学生に負けないよう心身ともに健康な日々を過ごしていきたいと思う今日この頃です。



さて、作業療法学科の近況報告です。作業療法学科では6月にクイーンズ大学(カナダ)から3名の教員を招聘し、大学で国際交流特別講義を行っていただきました。作業療法学科の在学生も参加し、英語で質問したりお礼として歌を披露したりプレゼントを贈ったりと様々な交流を行い、国際感覚を養う良い機会になりました。

また同月にはOT・ST連携研修会が開催されました。この研修会は、同窓会が主催となり同窓生と卒業教育の場を充実する目的として開催されています。東京で行われた研修会でしたが、新潟や隣県の同窓生や在学生を合わせて30名以上が参加しました。同窓生の皆さんが現場で積み重ねた実績を発表しており、各職場で活躍している姿を知り自分自身も頑張らなければいけないという気持ちになりました。



皆さんも新潟にいらした際は、ぜひ作業療法学科へ顔を見せに来て下さいね!作業療法学科ブログ「サクサク放送局」も随時更新しておりますので、学科の近況をチェックしてみてください。<http://nuhw.blog-niigata.net/ot/>

言語聴覚学科

言語聴覚学科 講師
内山 信

卒業生の皆様、如何お過ごしでしょうか。昨年着任しました内山です。本学科では今年3月に10回目の卒業生を送り出すとともに、山口富一先生、志村栄二先生、平沢絵里奈先生がご退職されました。また4月より新たに講師の桑原桂先生、助教の大石如香先生、助手の市野千恵先生をお迎えいたしました。



さて6月28日に新宿ワシントンホテルにおいて同窓会主催による「OT・ST連携研修会」が開催されました。当学科からは2期生の市野千恵先生が家族支援と多職種連携に関する演題を、4期生の長嶋健介先生と5期生の塚田紗知先生が摂食嚥下障害に関する演題を発表されました。研修会には多くの卒業生が来場し旧交を温め合



いました。また日頃の疑問や悩みを語り合うなど情報交換の場となりました。卒業生の皆さんがそれぞれ自立し、活躍されている姿を拝見し、学科教員一同、とても嬉しく感じております。今後も卒業生の皆さんの学会等への参加や発表を大いに期待しております。

義肢装具自立支援学科

義肢装具自立支援学科 助教
高橋 素彦

義肢装具自立支援学科卒業生の皆さん、本年度より赴任しました高橋素彦(たかはしもとひこ)と申します。私も須田先生、藤枝先生と同じ学校を卒業し、10年間の臨床に携わり着任となりました。



さて、今回は私から学科の近況報告をさせていただきます。4月に入学しました1年生は48名。日々キイキキと登電門である基本工作実習、解剖学などの専門科目に取り組んでいます。2年生は8月上旬で定期試験も終了し夏休みに突入です。今頃は後期の授業に向けてエネルギーを充填中でしょうか。3年生は福祉用具関連施設の臨床実習真只中です!初めての臨床実習のため、不安もありながらも大きく成長して帰ってくると思います。また4年生は臨床実習から戻ってきたのも束の間、夏休み返上で卒研に取り組んでいます。卒業生の皆さん、まだまだ暑い日が続いていますが、体調管理はしっかりと!皆さんのさらなる飛躍を期待しています。



臨床技術学科

臨床技術学科 助教
高橋 良光



今年度、本学科の一期生は初めて臨床工学技士および臨床検査技師として全国に羽ばたこうとしています。卒業生のいない本学科の一期生は、夢と期待に満ち溢れています。しかし、何事も初めての経験ばかりで参考となる先輩がいない状況で、多くの戸惑いがあるのも現状です。4年生の4月から開始

されている臨床実習では、初めて医療現場の患者様やスタッフの方々と密接に関わることで、これまで経験のしたことのない雰囲気を感じ、未来の自分のあるべき姿を少しでも想像できたのではないのでしょうか。臨床実習で得た経験を基に、一人一人の人生が選択されていくことでしょう。人生の選択という一期生の軌跡は、今後多くの後輩達の道しるべとなります。それだけに期待は、計り知れません。臨床現場でプロの技術者として活躍することは、後輩たちにとってとても魅力的なことです。後輩達が少しでも夢と希望を大きく持つよう、臨床業務で活躍するだけでなく卒業研究で得た知識を活かし、近い将来院外で活躍することも期待しています。



健康栄養学科

健康栄養学科 助手
星野 芙美



卒業生の皆さんお元気ですか。今春は、助教の小林奈穂先生、助手の御子貝佳実先生のご退職、助教の越中敬一先生の健康スポーツ学科への異動がありました。また、助手として、本学科2期生の近藤幸子先生と、運動生理学

化学で専門でランナーの増田紘之先生が赴任され、私、星野が育休を経て復帰しました。今年度は、カリキュラムの変更があり、新たに、管理栄養士の使命・職業倫理や、専門科目の学習が1年次に入りました。また、臨床実習の充実も図りました。卒業生のみなさん、実習のお願いがあった際には、ご指導の程お願いします！さて、学生の活動としては、5月下旬に、念願だった「2014大学は美味しい!!フェアin新宿高島屋」へ参加してきました。大学と企業等とで開発した、特色のある商品を販売するフェアで、日本全国から約40の大学が参加しました。本学は、シルクスイートというサツマイモ(耕作放棄地解消目的で栽培)を使って、地元菓子店と開発したお菓子を販売しました。フェアは盛況で、本学のお菓子はほぼ売切でした！みなさんの近況もぜひお知らせ下さい。



健康スポーツ学科

健康スポーツ学科 講師
佐藤 晶子



卒業生の皆様、元気に活躍のことと存じます。昨年度「スポーツ栄養学」を専門として健康スポーツ学科に着任した佐藤晶子と申します。

今年度、本学科は201名の一年生を迎え、ますます活気にあふれています。彼らの学年から新しいカリキュラムがスタートし、2年後には4つのコース(健康医科学、コーチング科学、スポーツマネジメント、スポーツ教育)に分かれ、それぞれの分野をより専門的に学べる体制が整いつつあります。

また今年度から、アメリカの教育団体「NSCA」のトレーナー資格であるCSCS(アスリート対象)とCPT(一般の方対象)の認定校となり、学内での講習の実施および認定試験の受験ができるようになりました。

地域貢献活動もますます充実し、学生たちは子どもを対象としたスポーツ教室、中高齢者の健康づくりを目的とした運動教室などに積極的に取り組んでいます。

これらの近況は健康スポーツ学科のオリジナルサイトにも掲載されていますので、ぜひご覧ください。



看護学科

看護学科 助教
坪川 麻樹子



看護学科では、先日、統合実習最終クールの学内発表会を終了し、4年生はすべての学外実習が終了となりました。

統合実習は看護師の多重課題、看護管理等を学ぶ実習です。各病院での学びを共有し、看護の専門性とは何か、どのような強みがあるか、などを学内発表会で討論しました。

「どんなに忙しく、いろんな業務が重なっていても、患者さんのことを中心に考えること」を学べており、より実践に近い実習に、4年生たちも今後の自分を想像でき、現場の空気に触れられていたようです。そして何より、実習で卒業生が指導者として学生と関わってけることが増えていることに、心強いと感じました。

また、2年生は2週間の基礎実習、3年生は9月終わりより半年にわたる領域実習に入ります。色々な場面で学生と関わってくださる卒業生の皆様。これからも後輩の育成に力をお貸しください。今後ともよろしくお願いいたします!



社会福祉学科

社会福祉学科 准教授
青木 茂



卒業生の皆さん、こんにちは。今回は、社会福祉学科の学生による社会貢献活動をご紹介します。1つ目は、少子高齢化、人口減少の課題を抱えた佐渡市を元気にする、「域学連携」地域づくり実証研究事業です。平成24年度は延べ130人、25年度は90人の学生と教員が佐渡に渡り、集落行事のお手伝い等とおして住民との信頼関係を深め、総合的な支え合いの仕組みづくりに取り組んでいます。2つ目は、平成22年度から実施している、「新潟水俣病関連情報発信事業」です。新潟水俣病患者や水俣市の胎児性患者の方々との交流等とおして学んだ成果を県民に発信し、水俣病に対する差別・偏見等のない地域社会



づくりに貢献しています。3つ目は、北区の小・中学校及び高等学校や生活困窮家庭、児童養護施設の児童生徒に対する学習支援と児童相談所におけるメンタルフレンド活動です。専門的な基礎知識に基づいて、さまざまな困難や課題を抱える子どもと直接関わる活動を行っています。

医療情報管理学科

医療経営管理学科長/
医療情報管理学科長/教授
福島 正己



第一期の卒業生を送り出して半年が過ぎようとしています。一期生の皆さんが、社会人としてどの様な毎日をご過ごしているのだろうか?と時折思います。皆さんが残してくれた就職ランキング全国第6位の実績は、皆さんの努力の賜物として誇りに思います。人生いろいろあるでしょうが、楽しく頑張って、自己実現を目指してください。4年生は、卒業研究が始まりました。就活中の学生は、大変ですがきっと目標を達成してくれると確信しています。3年生は、資格試験に向け本格的に取り組み始めています。学外実習、就職研修等頑張ります。2年生は、学生生活を謳歌しています。少し度が過ぎていないかも?後期から指導強化!です。1年生は、これからです。新カリキュラムで資格試験対応を早めています。



視機能科学科

視機能科学科 学科長/教授
阿部 春樹



卒業生の皆様、はじめまして。この度4月1日付で、新潟医療福祉大学の医療技術学部「視能訓練士(国家資格)」を養成する「視機能科学科」が開設され、新潟県内はもとより近隣の諸県から57名を本学科の1期生として迎えることができました。

視能訓練士は、人間の一生に関わる「眼」の健康管理を行う国家資格として1971年に誕生し、眼や脳に関する病気の診断・治療のための「眼科一般検査」、視機能の維持・回復を図る「視能矯正訓練」、視覚障がい者の生活指導や補助具の選定を行う「視能リハビリテーション」、3歳児健診・生活習慣病健診などで「視機能の健康管理」を行うスペシャリストとして病院等医療機関や特別支援学校など幅広い領域で活躍しています。

1年生は大学にすっかり慣れて充実した大学生活を送っておりまして、4年後には完成年度を迎え、第1期生を送り出すこととなりますので、本学科の卒業生が活躍する姿を楽しみに待っててください。



第8研究・実習棟(P棟)紹介

○ 視機能科学実習室

一般検査、視力検査、コンタクトレンズ、ロービジョンなど、検査項目ごとにコーナーを設置し、それぞれのコーナーには最新モデルの眼科機器を数十種類備えています。



○ コンタクトレンズコーナー

複数社のトライアルレンズ、充実したケア用品、着脱練習用の洗面台、フッティングをみるスリットランプ、角膜形状解析装置を揃え、処方手順およびレンズケアを学びます。



○ 一般検査コーナー

複数種の屈折計および眼圧計、角膜上皮細胞測定装置、光干渉眼軸長測定装置、アコモレフなど臨床現場で採用されている最新機種から機器の原理および操作手法を習得します。



○ ロービジョンコーナー

携帯型・据置型拡大読書器、拡大鏡、弱視眼鏡、音声を利用した活字読み上げ装置、白杖など多数取り揃え、ロービジョン(低視覚)者の補助具、日常生活用具選定を学びます。



○ 視力検査コーナー

国際標準式の5m視力表が9レーン、1m用のセービングチャート、コントラスト視力検査器、対数視力検査装置など臨床現場に即した多種、多様な検査装置を用意しています。



○ 眼底カメラ検査室

網膜剥離や緑内障などを検査する最新の眼底カメラを8台設置しています。散瞳、無散瞳、三次元画像解析など多様な機種を用意し、日進月歩の眼科医療に対応します。



部活・サークル紹介

細胞診研究会

2014年、私たち細胞診研究会「通称cell研」は創部4年目を迎えました。部員総数は32名で毎週水曜日にN棟5階の顕微鏡室で楽しく活動しています。前期は、伍桃祭の発表に向けて数班に分かれ、顕微鏡による観察、班員とのレビュー、研究合宿を実施します。また、合宿の最終日にはバーベキューで親睦を図ります。昨年の伍桃祭では、口腔細胞の形態的特徴や、喀痰中の食物残渣と癌細胞の見分け方について発表しました。後期は、また別のテーマに取り組み、12月に独自の発表会を実施しています。

部の名前だけを見てもお堅い部活と思われるがちですが、先輩、後輩の仲が良く、部活内でも学年関係なくワイワイと楽しく活動しています。普段は交流の機会を持ってない先輩方と部活動を通じて親しくなれるのはとても魅力的です。また、自分達でテーマを選定し、研究をするので、先生から指導して頂く授業とは一味違う経験と知識を得ることができます。

近年は、社団法人リポーム様や、新潟県細胞検査士会様と共に子宮頸がん予防の啓発活動を行うなど、地域社会へと活動の幅を広げています。

これまで、ご支援くださいました同窓会の皆様に感謝するとともに、今後とも、細胞診研究会の活動にご理解を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

代表 臨床技術学科2年 小田 雄基



園芸部

今年度の園芸部は前年度よりも活発に活動しようと思いい部員みんなで協力して中庭のスペースを使っていろいろな物を育てることを目標としました。畑に肥料を加え耕し、畝を作るのは大変でしたが、部員みんなでやることでとても充実して活動できました。

毎日水やりをして、天候に見舞われない時もありましたが、見事に様々な花を咲かすことが出来ました。特に先生から苗を頂いたひまわりはとても綺麗に咲いていて夏の風物詩でした。

野菜作りにも挑戦しましたが、一部の野菜は畑の土との相性が悪く実がなることが無かったのですが茄子や南瓜は無事作ることができました。

これからは自然観察として植物園に行ったり、野外活動にも積極的に取り組みより一層部活動に取り組んでいきたいと思っています。またいろいろな植物も育ていき、中庭を学生たちの憩いの場所となるようにしていきたいと思っています。

代表 臨床技術学科2年 山田 格平



ダンス部

全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)にて特別賞を受賞!!

8月6日(水)～10日(日)に、神戸文化ホールにて「第27回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)」が開催され、本学のダンス部が創作コンクール部門においてエントリーした作品『歩く木ー「十センチの平和」よりー』が「特別賞」を受賞しました。

エントリー作品に出演した学生は、今井利香(医療情報管理学科3年)、長井捺珠(健康スポーツ学科3年)、吉崎慈保(大学院健康科学専攻2年)、小塚千晶(健康スポーツ学科4年)、安藤美和(社会福祉学科2年)、五十田陽子(健康スポーツ学科2年)、帆刈裕也(健康スポーツ学科3年)、渡邊隆晴(健康スポーツ学科3年)、岡彩香(健康スポーツ学科1年)、近藤来実(健康スポーツ学科1年)、長谷川華菜(健康スポーツ学科1年)、萩原舞子(健康スポーツ学科1年)、保科慶(健康スポーツ学科1年)の計13名です。



このコンクールは、高校生と大学生が合同で参加する創作ダンスコンクールの中では全国で最も規模の大きい大会です。賞は各部門10校のみに与えられ、本学のダンス部が授与された特別賞は「主題にふさわしい斬新な動きの発見」に対して贈られました。

作品中、小道具の「縄」を用いて「木の根」を表したり、主人公の「鼓動」や「木の生命力」と重ね合わせて使ったりした独自性が評価されたものと思われます。

今回このような賞を受賞できたことも、ダンス部をいつも支えて下さっている保護者の皆様、教職員の皆様、サポーターの皆様のご支援があってこそです。心より感謝申し上げます。

来月には「少人数による創作ダンスコンクール(富山)」が控えておりますが、今回の結果に甘んじず、今後も練習や作品づくりに励んで参りたいと思います。

今後ともダンス部への温かいご声援をよろしく願いいたします。

ダンス部監督 中島 由梨



お知らせ

第1駐車場内にバスターミナルを移設しました

同窓生の皆さんが在学中に利用していた第1駐車場内にバスターミナルを移設しました。同窓生にとって施設がどんどん変わっていくのは寂しい気持ちもあると思いますが、市道開通による交通量の増加、学生の安全に配慮し、更に安全で快適なキャンパスづくりを進めています。同窓生の皆さんが大学にお越しの際には是非ご覧ください。 ※お越しの際は来客用スペースに駐車してください。



同窓会ホームページのお知らせ

皆さん、同窓会ホームページをご覧になっていますか？

母校や同窓会の最新ニュースは日々更新されています。また、活躍している卒業生を紹介する「同窓生は今!」や、「ここに届くいい話」などの卒業生情報を掲載しています。是非、定期的にご覧ください。また、同窓生の方に役員が寄稿のお願いをしております。役員から依頼があった際は、ぜひご協力をお願い致します。



会員情報・住所変更届のお願い

住所・勤務先・氏名の変更などは、同窓会トップページの「会員情報・住所変更届出」から手続きをお願いいたします。

また、同窓会に関するご意見・お問い合わせ・投稿は、次のアドレスをお願いします。

E-mail: dosokai@nuhw.ac.jp

同窓会サイトについて(会員情報・住所変更届出)

http://nuhw-dosokai.jp/

facebook
始めました!



只今「76いいね!」です。皆さんの協力で「500いいね!」目指しましょう。同窓生が繋がる新しいツールです。まだ見たことがない方は同窓会ホームページにあるバナーをクリック!!フェイスブックへGO!



編集後記 Hensyu-kouki



同窓生の皆様こんにちは。今年は全国的に記録的な豪雨に見舞われ、各地で被害を受けられた地域の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

さて、皆様もご存知のとおり本学は今年度より新たに視機能科学科を加え、全体で11学科になりました。この発展も偏に、同窓生の皆様のご支援あってのことだと存じます。そこで、今年度で同窓生が10周年という節目を迎えたことにあたり、10月25日(土)に同窓会設立10周年記念パーティーを開催致します。恩師の先生方を迎えて、大学での思い出や皆様の現在のご活躍などを語り合える場になれば幸いです。きっと皆様にとって実りのある時間になるはず。皆様のご参加をお待ちしております。

(健康スポーツ学科2014年卒 濱田祐輔)

新潟医療福祉大学同窓会

問い合わせ先:新潟医療福祉大学 事務局内 同窓会支援室
新潟市北区島見町1398番地

メールアドレス dosokai@nuhw.ac.jp

電話番号 025-257-4455

「大学院で学びませんか？」

大学院

次代の保健・医療・福祉・スポーツ分野を担う、教育者・研究者・高度実践専門職業人を目指す。

新潟医療福祉大学 医療福祉学研究科

本学大学院では、社会人の方も学びやすい昼夜開講制に加え、長期履修生制度、各種奨学金制度など、様々な面で皆さんの「学びたい」をサポートしています。

また、国家資格を有している方が、さらに専門的で高度な技術や知識の修得を目指す、または各種職能団体等による専門職資格の取得を目指す、かつ修士の学位取得もできる「高度専門職業人プログラム」を提供しています。キャリアアップを目指している方、少しでも興味をお持ちの方はお気軽にお問い合わせください。

■ 修学をサポートする制度

- 本学卒業生は、入学金半額(10万円)免除
- 平日は18:10から授業スタート。土曜開講や集中講義もあります。
- 長期履修生制度(修士課程:最長4年、博士後期課程:最長6年)
- 教育訓練給付金指定講座(一部対象外)

■ 各種奨学金制度

- 大学院無利子貸与奨学金(学費の全額または半額を無利子で貸与)
- 特別研究奨学金(卒業生対象、年間15~20万円を給付)
- 修学援助奨学金(2年時に15~20万円を給付)



【高度専門職業人プログラム】

■ がん看護専門看護師(CNS)コース

日本看護協会専門看護師認定審査に合格した方に与えられる高度な看護資格。本学では「がん看護」領域について認定されたカリキュラムを有しています。

■ 臨床徒手理学療法コース

理学療法における徒手療法の高度な技術、理論について学ぶコースです。

■ 臨床栄養専門コース

病態栄養専門師、糖尿病療養指導士、静脈経腸栄養学会サポートチーム専門療養士の資格取得を念頭に、臨床現場において活躍できる管理栄養士を養成します。

■ 認定社会福祉士単位取得コース

認定社会福祉士の単位の一部が取得できるコースです。

注目

優秀で経済的に修学が困難な方を対象に、修士課程学費減免特待生制度を設けています。採用された場合、2年間合計で**最大110万円の学費が減免**されます。(分野や年次により減免額は異なります)

詳細は大学院HPをご覧ください

<http://www.nuhw.ac.jp/grad/>

*資料請求やお問い合わせは本学大学院入試事務室まで。 TEL:025-257-4455(代) FAX:025-257-4456 E-mail:grnyuusi@nuhw.ac.jp

働きながら学ぶ 素晴らしさ

社会医療法人 桑名恵風会 桑名病院 勤務

新潟医療福祉大学 大学院 医療福祉学研究科
健康科学専攻 臨床栄養専門コース 2年
管理栄養士 遠藤 沙保里



私は、病院で勤務しながら大学院に通っています。大学院のきっかけは恩師に声をかけられたことからでした。そのカリキュラムはとても魅力的で好奇心を誘う内容でした。しかし、入学を検討する上で幾つか不安がありました。それは学費の工面、研究、仕事と両立できるかの不安です。学費については特待生制度や無利子奨学金の制度等があり利用することで工面できました。また、研究はもともと興味があった糖尿病で経管栄養投与患者に対するテーマで行っています。仕事との両立については職場

の上司やスタッフの協力があり通学可能となりました。1年時は平日2~3日(6・7限)と土日祝日に通学をしていました。現在は講義は無く研究に専念しています。社会人院生のメリットは仕事をしている中で出てくる疑問や不安を講義で学ぶことができ、次の日から使うことが出来るということです。また、大学で学んだ事は他の管理栄養士とも共有し知識向上につながりました。忙しい毎日を送っていますが、「時間は“見つける”ではなく“作り出す”」をモットーに、日々充実した毎日を送っています。

新潟医療福祉大学 同窓会

同窓会設立10周年記念パーティー
開催のお知らせ

新潟医療福祉大学同窓会が誕生して10年が経ちました。初めはA棟～H棟までしかなかった棟も今やP棟まで増えました。以前は駐車場だった所に棟が建ち、林だった所にはグラウンドができました。この10年で同窓生も4,700人を超え、来年には5,000人を突破しようとしています。

この度同窓会では設立10周年記念パーティーを下記の通り開催することとなりました。卒業してから忙しく再会することが少なかった仲間とこれを機会に再会してみたいかですか。大学での思い出話や今の大学の状況など社会での出来事から少しだけ離れ、昔を思い出してみませんか。きっと皆さんの明日への活力になるはずです。

参加希望の方は同封のハガキに必要事項を記入して投函いただくか、同窓会支援室宛に電話もしくはメールにてご連絡ください。たくさんの方の参加をお待ちいたしております。

最後にこれからもお体に留意されますようお祈りいたします。



日時 平成26年10月25日(土) 18:00～(受付17:30より)

場所 チサンホテル&コンファレンスセンター新潟 4階 越後
〒950-0911 新潟県新潟市中央区笹口1-1

内容 1. 同窓生、教職員による懇親会
2. 景品がもらえるクイズ大会
3. 参加記念品をプレゼント など

参加費 3,000円(当日受付にて徴収させていただきます)

申込み ①同封のハガキに氏名を記入し、保護シールを貼り投函ください。

②電話(025-257-4455)・Eメール(dosokai@nuhw.ac.jp)

のいずれかにより、お申込みください。締切:10月3日(金)当日消印有効

その他 カジュアルな服装でお越しください。

宿泊希望者は特別価格でご案内いたします。ご希望の方は、以下お問い合わせ先へご連絡ください。

お問い合わせ

新潟医療福祉大学 同窓会支援室 〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地

TEL:025-257-4455 FAX:025-257-4456 Email:dosokai@nuhw.ac.jp

(担当)
若井・加藤・計良